

平成 27 年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー  
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

## はじめに

北区教育委員会 教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

今年度は、義務教育9年間のスパンを通して、小中の学習上のつまずきや課題の解決を図るため開発された「北区小中一貫教育カリキュラム」を、各教科等の小中の教員が協同して改訂にあたりました。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流・連携活動の状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、平成27年3月に策定された『北区教育ビジョン2015』では、重点施策のトップに「地域と一体となった教育の推進」を掲げ、「サブファミリーによる特色ある教育の推進」「就学前教育・保育の充実」「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫教育校（仮称）の検討や、認定こども園の設置検討を行っております。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 目 次

## I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼……………	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼……………	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小……………	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼……………	7
稲付中・清水小・第三岩淵小・梅木小・うめのき幼……………	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小……………	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼……………	13
神谷中・神谷小・稲田小……………	15
浮間中・浮間小・西浮間小……………	17
田端中・滝野川第四小・田端小……………	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・滝野川第六小・谷端小・紅葉小 ・たきさん幼……………	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小……………	23

## II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要……………	25
--------------------	----

## 王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼）

### 1. 交流・連携の方向性

#### （1）研究主題 平成27年度 ～自己肯定感の高い子ども～

「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」  
～NIEを取り入れた、生きる力を育む幼小中一貫教育～

#### （2）研究の内容と方法

- 研究成果の継承と発展 平成26年度までの研究成果を引き継ぐため、「知・徳・体」の3分野を8つのチーム（教科・領域ごとの8分科会）で編成することを継続する。前年度までにまとめた教科の指導方法及び評価方法を授業（保育）にいかすことで、さらなる「自己肯定感の高い」子どもの育成に努める。
- NIEのつながり NIE教育を一つの共通ツールと捉え、朝のNIE・新聞タイムの実践における成果を検証し、工夫、改善を進める。幼・小・中の発達段階に沿い、新聞を活用しての教材開発に一層努める。
- 授業スタイルのつながり 小1プロブレムや中1ギャップ等、校種が変わる度に起こる段差を解消することや円滑な接続を図ることを目的とし、幼小中一貫の共通した授業（保育含む）スタイルづくりを目指す。

### 2. 具体的な活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
5月14日(木)	各学校	運営委員会	組織、研修内容検討、年間計画作成
6月10日(水)	王子小	ファミリー 研修会	研究方針の確認と具体的計画の検討 全体会、分科会、リーダー会、研究推進委員会(NIEの推進・授業スタイルの確認)
6月24日(水)	王子小	第1回学校 ファミリーの日	王子小教員による研究授業 研究協議・分科会・研究推進委員会
8月31日(月)	東十条小	ファミリー 研修会	講演会 NIEの理解（毎日新聞編集委員 与良 正男氏による「主権者教育について」 研究紀要説明 幼小中交流親睦会（バレーボール他）
9月 9日(水)	東十条小	第2回学校 ファミリーの日	東十条小教員による研究授業 分科会・リーダー会・研究推進委員会
平成28年 1月8日(金)	王子桜中	ファミリー 研修会	1/20の王子桜中研究授業の指導案検討 分科会・リーダー会・研究推進委員会
1月20日(水)	王子桜中	第3回学校 ファミリーの日	王子桜中教員による研究授業 分科会・リーダー会・研究推進委員会
3月末日	王子桜中	学校運営 委員会	1年間の反省・次年度計画検討 (NIE・授業スタイルの検証) 研究紀要完成

### (1) 研修講演会

27年8月31日(月) 全体研修における講演会(NIEの理解)

演題 「主権者教育について」～新聞編集委員が語る主権者教育～

毎日新聞社 編集委員 与良 正男氏

### (2) その他の交流活動

- 通年 合同避難訓練 5月 引き渡し訓練の合同実施(王子桜中・王子小)
- 6月 中学校体育祭への小学生、幼稚園児の参加(サブファミリー全体)
- 7月 中学生職場体験学習受け入れ(総合的な学習の時間・5日間)  
(サブファミリー全体)
- 10月 中学校生徒会と小学校児童会の募金活動(王子桜中・王子小)
- 11月 中学校体験入学(王子桜中・王子小・東十条小)
- 12月 小中学生主張体験発表会(青少年東十条地区委員会主催)
- 2月 小中交流音楽行事(音楽朝会での演奏・PTA行事での演奏 三校)
- 6・1・2月 幼稚園児と児童の交流、交流給食(小・さくらだ幼稚園)



小学生の幼稚園訪問



小中合同ユニセフ募金



NIE(読み比べ)授業

## 3. 成果と工夫した点

成果として(1年間の研究を通して)

- 幼・小・中での成長の過程を知ることで発達段階における保育・学習指導の相互理解に基づいた研究授業を実践できた。系統性や連続性を意識した教材開発、教具の工夫、学習形態の工夫を学び合うことができた。
- NIEを幼・小・中の学びのつながりの土台として位置付け、取り組んだことで児童・生徒の言語活動の幅が広がり、表現力の伸びにつなげることができた。
- 年3回実施した研究授業に向け教員間で学習指導案検討を深めたことで幼・小・中それぞれの段階の学びや学習指導を共通理解できた。11年間を通して教育・指導をするという共通認識と意識の深まりが成された。

工夫した点

- 特定公開フォルダを各分科会で活用し、指導案や紀要の原稿を入れることでサブファミリー内の全教員が常に最新の情報や進捗状況を知ることができた。  
今までの研究成果の整理と保管をフォルダで確実にを行い、今後につなげていく。

## 4. 課題と改善の方向性

本年度も分科会形式で研究推進をした。分科会ごとの研究経過や成果を全員で共有できるように努めた。次年度以降も研究成果を確実に継承し深められるよう3校1園の連携をさらに緊密にし、体制づくりを進めていきたい。

## 十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小・王子第三小

・王子第五小・荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼）

### 1. 交流・連携の方向性

- 学校ファミリーの取り組みの柱を「言語活動の充実」とし、各校ごとに視点を明確にもち、統一した指導案を策定していく。
- 中学校および幼稚園、5つの小学校との連携を一層強化する。
- 小・中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育を推進する。
- 地域の行事を活用した連携を推進する。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- 年度当初の4月にサブファミリー校園長打ち合わせ会を行い、本年度の方針と活動について再確認と調整を行った。
- 5月下旬にサブファミリー連絡会を行い、担当校長と副校長で今年度の十条富士見中サブファミリーの事業について打ち合わせを行った。

#### (2) サブファミリー全体での活動

- 6月24日（水）第1回研究授業 十条富士見中学校

分科会		学年
第1分科会	国語科	1年
第2分科会	社会科	1年
第3分科会	算数・数学科	2年
第4分科会	理科	1年
第5分科会	美術・技術・家庭科	3年
第6分科会	体育・音楽科	2年
第7分科会	英語・外国語活動	2年

※分科会後、全体会を行い、今年度の研修について全員で確認をした。

- 9月9日（水）第2回研究授業 十条台小学校

分科会	学年	分科会講師
第1分科会	5年	十条富士見中学校長 高木潤也先生
第2分科会	3年	王子第五小学校長 岩切洋一先生
第3分科会	4年	第四岩淵小学校長 山本英一先生
第4分科会	6年	王子第三小学校主幹教諭 橋本 暁先生
第5分科会	2年	じゅうじょうなかはら幼稚園長 高橋直子先生 王子第三小学校長 北野扶美子先生
第6分科会	1年	北区外国語活動アドバイザー 片山知子先生

○1月20日（水）第3回研究授業 王子第二小学校

分科会		学年	分科会講師
第1分科会	国語	1年	十条富士見中学校長 高木潤也先生
第2分科会	社会科	3年	王子第五小学校長 岩切洋一先生
第3分科会	算数・数学	5年	荒川小学校長 大畑賢一先生
第4分科会	理科	4年	王子第三小学校主幹教諭 橋本 暁先生
第5分科会	美術・技術・家庭科 体育・音楽	2年	王子第三小学校長 北野扶美子先生
第6分科会	英語・外国語活動	6年	北区外国語活動アドバイザー 片山知子先生

※分科会後に全体会を行った。王子第五小のオリンピック・パラリンピック教育の取組についての発表を行った。

### 3. 成果と工夫した点

○言語活動の充実を視点にした指導案

小中一貫教育カリキュラムに基づき言語活動の充実を視点に各校ごとにした視点を明確にして、統一した形式の下、指導案を作成し、各分科会で研究を深めた。

- ・十条台小学校⇒学習活動に「児童がもった思いや考えを、言語を通して、一対一でかかわり合う場」を設定し、安心感の醸成を図った。
- ・王子第二小学校⇒「雰囲気づくり」と「表現しやすい工夫」を視点に、言語活動の充実を図った。

その結果、幼・小・中のつながりを意識したカリキュラムの活用について、「言語活動の充実」のための手立て等を検討し、研究を深めることができた。

○児童・生徒に関する情報共有

第1回目の研究授業では、児童・生徒に関する情報共有を行い、小1・中1ギャップの防止等も含め、連携を深めることができた。

○講師の指導

第2・3回目の研究授業では、研究授業の後、分科会講師から指導を受けた。各分科会で指導の仕方の工夫や教材の紹介等を行うことができた。

### 4. 課題と改善の方向性

○分科会のあり方

今年度は、6または7つに分科会を分け、小中一貫教育カリキュラムに基づく授業を行った。分科会によっては、いくつかの教科を統合したこともあり、協議を深めにくい教科もあった。また、道徳や総合的な学習の時間についての研究について、次年度に向け検討する。

○環境の整備

庁内ポータルを活用して指導案検討や連絡調整等を行った。今後もさらに工夫して活用して効率的に研究を進めていく。また、ICTを活用した授業を推進し、サブファミリーで紹介し合うようにしていく。

## 明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

### 1. 交流・連携の方向性

#### （1）研究主題

キャリア教育を中心とした学力向上を特色として、以下の4つの柱で推進する。

- ①各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑なコミュニケーションを築く。
- ②学習意欲の向上を図り、子どもたち自身による学びの参画を図る。
- ③今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- ④小中連携して9年間一貫して取り組むことによって内容の充実を図る。

### 2. 具体的な活動

#### （1）日時・会場・活動内容

- 4月23日（木）15：30～明桜中 運営委員会  
・組織づくり ・今年度の活動方針と計画を確認、全体会の仕事分担
- 5月1日（金）15：00～明桜中、全体会・運営委員会  
・平成27年度 明桜中SFの活動説明 ・授業研究分科会顔合わせ、役割分担
- 6月9日（火）15：00～ 明桜中、授業分科会・運営委員会  
・6月24日明桜中学校の授業の事前検討
- 6月24日（水）13：45～ 明桜中 研究授業・協議会・運営委員会  
・明桜中授業（10分科会）授業後、分科会ごとに研究協議会・養護分科会情報交換
- 8月28日（金）10：00～ 明桜中 運営委員会  
・9月9日の生活（育ち）分科会の企画、分担、準備
- 9月9日（水）13：45～ 柳田小 授業・運営委員会  
・柳田小学校授業 キャリア教育に関して10の生活（育ち）分科会でグループ協議
- 12月22日（火）15：00～豊川小 授業分科会・学力向上委員会・運営委  
・1月20日豊川小の授業の事前検討 ・学力向上委でつまずきゼロプランを検討
- 1月20日（水）13：45～豊川小 研究授業・講演会・運営委員会  
・豊川小授業（11分科会） 養護分科会情報交換  
・講演会 講師 関本恵一先生
- 2月4日（木）15：30～明桜中 運営委員会  
・2月19日の全体会に向けて ・1年間の反省、来年度の活動内容の検討など
- 2月19日（金）15：00～明桜中 全体会・運営委員会  
・各教科分科会より今年度の研究の成果と課題を報告

#### （2）分科会での活動

##### ①授業研究分科会

6月24日（水）明桜中学校、1月20日（水）豊川小学校において各教科及び道徳・特別支援・養護の12分科会に分かれて研究授業を行う。（養護部は情報交換）各分科会では次のことが話し合われた。

- 学びのつながりから学習上の児童・生徒の課題と対応策。



○キャリア教育の観点から授業を見直し、課題を探る。

②生活（育ち）分科会に関わる課題について

9月9日（水）柳田小学校において

学級づくり・学習習慣・言語活動・家庭学習・けが・事故対応のテーマで10分科会に分かれ、児童・生徒の実態を課題、対応策について情報交換をする。

（3）その他の活動

①あいさつ運動 児童会・生徒会を中心にファミリー各校であいさつ運動を行う。

②キャリア教育推進の4つの観点からのアンケートを明桜中学校生徒にとる。

③講演会 1月20日（水）豊川小学校において

講師 関本恵一先生 演題「小学校キャリア教育から中学校キャリア教育へ」  
社会の現状とキャリア教育の意義、そして、具体的な取組について講演いただく。

### 3. 成果と工夫した点

（1）【教科指導面での連携について】

小学校1回、中学校1回の授業を通し、小学校・中学校は互いの指導内容・指導方法・児童生徒の実態などを知ることができた。小学校は中学生になるまでに指導しておかなければならないこと、中学校は小学生の実態を知ることによって難しいことを生徒に要求していたり、もっと高いレベル要求ができたなど、指導の目標を設定しなおすことができた。

《キャリア教育との関連》 年度当初はキャリア教育についてあまり理解していなかった教員がほとんどだったが、2回の授業を終える頃には、どのような能力を育てたらよいか理解するようになった。例えば、今まで何気なく話し合い活動を行っていたが、現在は人間関係能力育成の観点で考えるようになり、キャリア教育の意味づけができるようになった。

（2）【生活指導面での連携について】

学級づくりや学習習慣などでは大きなギャップは感じなかったが、家庭学習や怪我の時の保護者対応などに小・中学校の違いがあった。小・中学校の違いを理解したうえで、小学校側からも、中学校生活に対応できるように児童や保護者に伝えていかないといけない。

### 4. 課題と改善の方向性

今年度、明桜中学校ファミリーでは、キャリア教育を柱に研究を進めることとした。最初、キャリア教育について多くの教員はほとんど理解していない現状があった。しかし、2回の研究授業、生活指導の話し合い、講演会を通してキャリア教育への理解が深まり、キャリア教育の4つの能力（①人間関係形成・社会形成・②自己理解・自己管理・③課題対応・④キャリアプランニング）から9年間の教育を見直すことができるようになってきた。しかし、何にポイントを絞って研究を進めるべきか、焦点が定まっていない現状である。そこで、今年度末にキャリア教育の観点から見て、明桜中学校ファミリーの児童・生徒に何を身に付けさせたいかを教師向けのアンケート調査を行い、課題を明確にしていきたいと考えている。

## 堀船中サブファミリー（堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼）

### 1. 交流・連携の方向性

本年度より、「情報活用教育（＝情報活用能力の育成）」を柱として、幼小中の連続した11年間の学びを視野に入れ、幼小中教員が連携した授業実践を行った。

本サブファミリーでは、大きく「知育」・「徳育」・「体育」の三分野に分けて、「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指している。具体的な組織については、上記の三分野を本年度より、5つの分科会に再編成して研究を進めることにした。分科会のメンバーは1年間固定した。

「知育」分野： ①国語・外国語分科会 ②算数・数学分科会 ③社会・理科分科会

「徳育」分野： ④道徳・芸術表現分科会

「体育」分野： ⑤体育・特別支援教育分科会

### 2. 今年度の主な活動内容

5月14日 堀船中にて全体会（今年度の方針、組織、情報交換）

6月中 6月連携授業の指導案検討→特定公開フォルダを活用し、指導案を検討

6月24日 堀船小にて連携授業（第1回ファミリーの日）

【知育】国語科 3年2組 御厨存子教諭

算数科三分割 5年1組 大野久仁子主任教諭 5年2組 久田麻子教諭

算数少人数 原 勲 主幹教諭

理 科 6年1組 古澤直子教諭

【徳育】音楽科 3年1組 石倉朋美教諭

（佐藤寿子教諭）

【体育】保健体育科 6年2組 原 豊教諭

連携授業 堀船小



8月25日 堀船中で夏季ファミリー研修 9月9日の連携授業の指導案検討

9月 9日 堀船中で9月連携授業（第2回ファミリーの日）

【知育】英語科 1年2組 土井宏之主幹教諭 窪田良行教諭

数学科 1年1組 上原広伸教諭 理科 3年2組 渡辺正明教諭

【徳育】音楽科 3年1組 吉田郁子主任教諭

【体育】保健体育科 2年1・2組 杉政 健教諭・池田麻美教諭

1月 7日 北とぴあ 会議室で1月連携授業の指導案検討

1月20日 滝五小で1月連携授業（第3回ファミリーの日）

【知育】国語科 6年1組 河手乃富子主任教諭

算数科 6年2組 武澤良樹教諭 佐古一久教諭

理 科 5年1組 古館佳美主任教諭

【徳育】音楽科 2年2組 北村由希教諭

【体育】保健体育科 3年2組 鈴木誠教諭

連携授業 滝五小



2月 3日 運営委員会① 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 堀船中にて

2月23日 運営委員会② 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 滝五小にて

講師の先生方

【知育分野】

(国語・外国語分科会) 東京家政大学進路支援センター進路支援アドバイザー 三原一浩先生  
(算数・数学分科会) 北区教育アドバイザー 中尾豊三郎先生 教育指導員 岡本辰雄先生  
(社会・理科<生活・総合>分科会) 帝京科学大学教職特命教授 川上彰久先生

【徳育分野】(道徳・芸術表現分科会)

東京都教職員センター 研修部教育経営課 教授 川島瑞穂先生

【体育分野】(体育・特別支援教育分科会) 元北区立浮間小学校校長 伊田周平先生

### 3. 成果と工夫した点

- ①全体会を5月に実施して、本年度の取組方針・目標や研究方法をファミリーの全職員に周知徹底できた。
- ②序内ポータルの特設公開のサブファミリーフォルダを有効活用することで、研究資料や指導案を共有化し、迅速に情報交換を行うことができた。
- ③指導案検討会の日程を設けたことで、教員同士のコミュニケーションの場が増え、幼小中の垣根も低くなり、異校種の教員が互いにT1・T2となり授業をしていくことができるようになった。
- ④「情報活用教育」を柱とした研修テーマが明確に指導計画に位置づけられたことで、ICT 機器を活用した授業や収集した情報を整理しての話し合い、発表する主体的な学習活動が行われるようになった。
- ⑤研究組織を5つの分科会に再編成し、メンバーは1年間固定したことにより各教科・領域における連続性、問題点、工夫している点などをより具体的に継続的に話し合うことができた。
- ⑥講師の先生を1年間固定し、年間を通じて指導していただくことで、継続的に深まりのある研究を進めることができた。

### 4. 課題と改善の方向性

- ①幼小中一貫して、子供たちの思考力や判断力、表現力を育成するために、多様な情報活用を身に付け、子供たちの主体的・能動的な学習、協働学習、いわゆるアクティブラーニングを取り入れた授業スタイルの確立をしていくことが課題である。授業規律の確立も含め、ファミリー全体の指導計画を構築していく。
- ②つまずきゼロプランの小中の資料を意図的に活用しながら、中一ギャップの解消にむけて具体的に実践していくことが課題である。小中一貫した基礎・基本の定着のために漢字、計算、スペリング・ローマ字コンテストなど、できるものから具体的に計画し、行っていく。
- ③指導案検討会の日程を夏季、冬季休業日に1日ずつ設けたが、6月のファミリー連携授業前には、時間設定できなかったもので、次年度は、6月に指導案検討会を設置していく。



第2回指導案検討会議 北とびあ



連携授業 堀船中

## 稲付中サブファミリー（稲付中・清水小・第三岩淵小・梅木小・うめのき幼）

### 1. 交流・連携の方向性

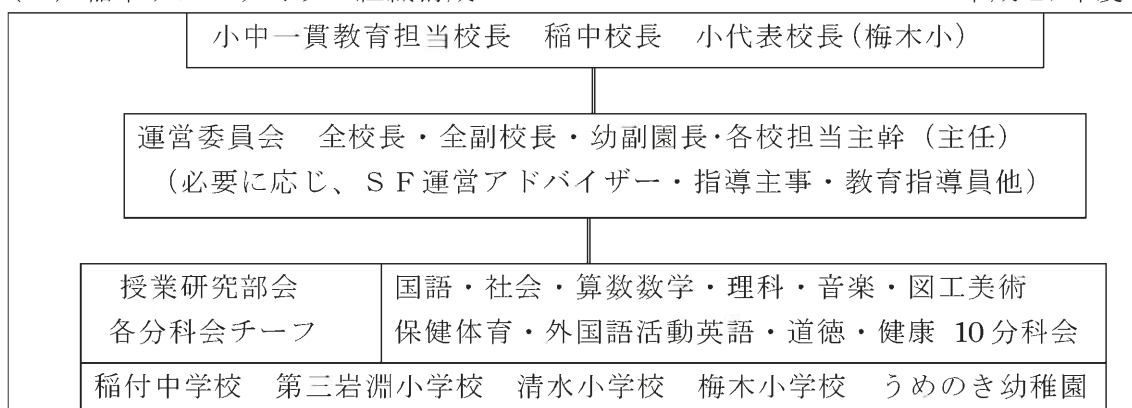
平成23年度に各学校の教育目標を持ち寄って稲付中サブファミリーとして目指す幼児児童生徒の姿を設定した。平成27年度の方向性は、その実現に向けて教育活動の連携・推進をさらに強化することであった。最近の数年間は、教科分科会を中心に幼小中連携授業に取り組み、幼小中の滑らかな学びの連続性の深化が図れるように授業実践、協議・検討を進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。

また、今年度も東京都より「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受け、合同行事の開催や、授業研究・体験教室の実施等、協力して取り組んだ。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 稲中サブファミリー組織構成

平成27年度



#### (2) サブファミリー全体での活動(年間計画)

実施日	会場	取組	内容
5月 8日 (金)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、 6月学校ファミリーの日計画
6月 24日 (水)	梅木小、 うめのき幼	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月 28日 (金)	清水小学校 三岩小学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
9月 9日 (水)	清水小学校 三岩小学校	連携授業	教科分科会ごとに連携授業、研究 協議会、つまずきゼロプラン検討
12月 22日 (火)	稲付中学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
1月 20日 (水)	稲付中学校	連携授業 研究分科会	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ(成果と課題)
3月 7日 (月)	稲付中学校	全体会・報告会 運営委員会③	各分科会報告、次年度へ向けて 次年度計画に向けて

### 3. 成果と工夫した点

- (1) 今年度も9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリー一斉研修日を設定した。幼小中の教員が分科会ごとに集まり指導案や指導方法を検討したり、役割分担をしたりすることを通して互いの経験や知識・技能、思いを伝えながら教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) ファミリーの日3回全てで授業研究を実施した。授業後の分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。幼小中の校種にまたがる内容について互いの立場を尊重した協議をすることができた。
- (3) 特定公開フォルダ〈稲付中サブファミリー〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の場として活用の幅が広がった。また、フォルダ作成による写真・文書・資料等のデータ管理により、事務処理や文書作成の効率化を図るとともに、昨年度までの実績を踏まえた活動計画の作成に役立てることができた。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育推進校として、稲付中学校での「2年オリンピック教室」の様子をサブファミリー間で情報を共有することができた。小学校3校合同水泳記録会では、2名のオリンピック選手を招聘（へい）して「水泳教室」を実施した。中学校進学前の高学年児童が一堂に会して親睦を深める機会を増やすことにより児童相互の理解を深め、中学校入学後の好ましい人間関係の形成につなげることができた。

### 4. 課題と改善の方向性

#### (1) 授業研究での課題と改善

年3回のファミリーの日を全て授業研究日としているが、サブファミリー内の学校数が4校1園のため、毎年全ての学校が授業を行う体制では、参観者が2会場に分散することが起きる。また、自分が所属する分科会の授業については研修を深めることができるが、特定公開フォルダの記録を閲覧したり、全体会で部会の発表を聞いたりするだけでは他の分科会の様子が分かりにくい。

次年度は、小学校が1校減り、3校1園になる予定である。各回、授業を公開する会場を1校にして、所属分科会以外の授業も少しは参観できるようにしたい。

#### (2) 研究推進についての課題と改善

次年度から、オリンピック・パラリンピック教育は東京都の全ての幼稚園・小中学校が行うことになる。指定を受けた2年間は、配当予算を活用して子供達に豊かな体験の場を設定することができた。今後は、東京都が示す実施方針に沿って教育活動を進める中で、これまでの取組・開発の成果を生かして、さらなる発展へとつなげていきたい。

## 赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

### 1. 交流・連携の方向性

児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。授業においては、北区小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。

また「防災教育」に焦点を当て、「防災教育小中一貫年間指導計画」を策定するとともに、小中合同引取訓練や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災教育を推進する。

#### (1) 運営組織

- ・運営委員会…各校長及び副校長

○運営方針の決定、各校間で必要な調整を行う。

○時程・場所 いずれも午前10時から 赤羽岩淵中学校校長室

#### (2) 授業研究について

- ・授業研究を貫くテーマ「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」

- ・各分科会10部会 ( )内は運営委員…各校校長及び副校長

国語部会 (赤岩中：井上校長)

社会部会 (赤岩中：小倉副校長)

算数・数学部会 (第四岩淵小：山本校長)

理科部会 (岩淵小：折本校長)

外国語活動・英語部会 (第四岩淵小：川島副校長)

体育・保健体育部会 (なでしこ小：石井副校長)

音楽・図工・美術・技術・家庭部会 (なでしこ小：早川校長)

特別支援部会 (赤羽小：飯島副校長)

養護部会 (岩淵小：眞砂副校長)

防災部会 (赤羽小：本間校長)

※教員は上記10部会のいずれか1部会に所属

### 2. 具体的な活動

- ・5月 8日 (金) …全体会、各部会 その後 運営委員会 (赤岩中)

- ・6月24日 (水) …赤羽岩淵中学校で授業研究及び研究協議会 (赤岩中)

※講師は各部会担当で手配

- ・8月27日 (木) 午前…防災関連の講演会研修。(赤岩中)

- ・9月 9日 (水) …防災教育に焦点を当てた授業研究 (赤岩中)

- ・1月20日 (水) …各小学校で授業研究及び研究協議会 (各小学校)

※講師は各部会担当で手配

- ・2月18日 (木) …全体会、中3小6担当連絡会 (赤岩中)

### 3. 成果と工夫した点

- ①平成26年度の成果と反省を生かし、分科会の形を見直し、小中が連携した授業研究を推進する分科会を10分科会に編成し直した。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識し、「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」を研究のテーマに据え、研究内容を深化させることができた。研究の焦点を絞ることで大変成果があがった。
- ②防災引き取り訓練を小中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったその足で、中学校へ来るといふ実際の状況に近い訓練ができた。サブファミリーの小中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識が大変高まった。
- ③北区防災学校・地域との合同防災教育授業・ファミリーの日防災研究授業・夏休み防災講演会など、各小中学校で実践的な防災教育に取り組んだ。
- ④ファミリー小学校の6年生全員を対象にした中学校新入生体験授業の実施、PTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加しての長期休業前のサブファミリー生活指導連絡協議会など、関係諸機関・PTA・児童を巻き込んだファミリー間の連携行事でさらに強く結びつくことができた。
- ⑤年度末には「小6」「中3」の担当者が情報を共有し、「中1ギャップ」の解消に努めた。

### 4. 課題と改善の方向性

今年度の成果をさらに深化させていくため、今年度の活動をさらに充実したものにしていく。そのために情報の共有をより密にし、互いの連携を深めていく。



防災引き取り訓練（5月1日）



防災学校（7月4日）



防災講演会（8月27日）



防災研究授業（9月9日）

## 桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼）

### 1. 交流・連携の方向性

9年間の学びを終えたとき、一人一人が自信をもって社会に巣立つ。何事にも意欲的に取り組み、自己有用感もてる幼児・児童・生徒を育てる。各教科・領域による共同授業に積極的に取り組み、幼小中の円滑な接続に努める。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

年度当初、運営委員会において、今年度の活動の方向性を確認した。3回の学校ファミリーの日に、1回目は桐ヶ丘中学校で公開授業、2回目、3回目は小学校2校で小中の教員による共同授業を実施し、それぞれを参観し協議会を行う。

#### 教科による連携

7月17日（金）15：00～ 共同授業に向けての打合せ会 赤西小、八幡小  
12月25日（金）14：45～ 共同授業に向けての打合せ会 桐郷小、袋小

#### (2) サブファミリー全体での活動

##### ① 桐ヶ丘中学校 平成27年6月24日（水）

全クラス、全教科、道徳の授業実践を公開した。各分科会（理・数、技家・美・生活、道徳、音楽、国・社・外国語、体育）から、発表ボードに意見をまとめ、全体発表をおこなった。

（発表ボードから一部抜粋）

#### 技家・美術、生活分科会

- ・小学校…離席が課題
- ・中学校…授業中目立たない生徒への援助が課題。
- ・ICT活用は実技科目に有効。



##### ② 八幡小学校 平成27年9月9日（水）

【道徳】夢を実現するために 1－（2）不とう不屈、希望、勇気 第5学年1組  
『いつも全力で ～首位打者イチロー～』 文 高原寿夫

【体育】バスケットボール 第6学年1組  
桐中の1年生バスケットボール部員、男女計6名が参加して、授業を行った。

##### ③ 赤羽台西小学校 平成27年9月9日（水）

【道徳】わたしたちの町 4－（5）郷土愛 第1学年2組  
「すてきが いっぱい」（出典：『1年生のどうとく』文溪堂）

中学生が緊張していたが、1年生が質問をしてくれ、だんだんコミュニケーションが増え、1年生にとっても中学生にとってもいい学びになった。

【算数】「かたちであそぼう」 コンパスを使って 第4学年1，2組  
コンパスを使って、いろいろな形をかいたり、円周のおよその長さを調べた。

【音楽】いろいろな音のひびきを味わおう 第5学年1組  
3人組で、音楽のしくみを生かして、自分たちのリズムアンサンブルをつくる。



1, 2グループが発表する。中学生のお手本を聴く。

- ④ 袋小学校 平成28年1月20日(水)
- 【道徳】 友達のよさ 2-(3) 信頼友情 第3学年2組  
テレビアニメである「ちびまる子ちゃん」をパワーポイントで映像として見せることで、児童にとってよりとらえやすくする。また、資料の朗読をアニメと同じ声である朗読CDで聞かせた。
- 【外国語活動】 「歩きましょう」 第2学年2組  
“Walk.” “Run.” “Stop.” “Turn around.” “Turn left.” “Turn right.”  
2つのグループに分かれ活動した。動作の表現に慣れ親しみ、動作の表現を用いて積極的に～や～とコミュニケーションをした。
- ⑤ 桐ヶ丘郷小学校 平成28年1月20日(水)
- 【体育】 「バスケットボール」 第6学年3組  
(ボール運動) チームのよさを生かし作戦を考え、ゲームをしよう。チームの作戦を意識した児童の動きを称賛する。ボールをもっていないときの動きに注目させる。
- 【道徳】 「いけない！」って言う勇氣 1-(3) 善悪の判断、勇氣 第1学年1組  
友達との遊びでルールを守らない時の気持ちを考え、「それっていけないよ」を聞いて話し合い、今までの自分を振り返った。
- 【理科】 「じしゃくにつけよう」 (9時間扱い) 第3学年1組  
磁石を半分にした場合、2本につなげた場合切ったりつなげたりして、磁石の極のでき方を調べた。このことを通して、必ず両端に極ができることを確認した。
- 【図工】 「わたしの畑」をつくる。 A表現(2) 4組(特別支援学級)  
新しい出会いであるコルク粘土を丸めたり、叩いたり、のばしての感触を楽しむ。自分のつくりたい畑をイメージして制作。コルク粘土とのかかわりを楽しみながら、わたしの畑を発想して作った。

### 3. 成果と工夫した点

- ① 昨年に引き続き、中学校での分科会において、発表ボードを使用しまとめ、発表を行った。このことで、発表の具体化と時間短縮が図られた。
- ② 各小学校において、小・中教員によるTTの授業を実践した。2校同時に行い、各自ねらいに応じて、参観授業を選択し協議会に参加した。
- ③ 外国語活動では、ALTや中学校の英語教員が直接かかわり、英語への親しみをより深化させた。

### 4. 課題と改善の方向性

- ① 発表ボードを使用、発表を行った。より短く簡潔な発表を目指す。
- ② つまづきゼロプランをもとに、中学校での課題を小学校が理解し、接続を円滑にするよう協力が得られているが、中学入学後の「悪口」、「スマホ使用の適正化」が課題であり、「道徳性」をさらに高めていく必要がある。

## 神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

### 1. 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携」から「一貫」へ、義務教育9年間の学びの連続性や校種の特徴を生かした「小中一貫教育」に着実に取り組む。【学びのスタンダードの構築】
- (2) 授業研究のための分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、授業研究を行う。
- (3) サブファミリー総合防災訓練を核として、義務教育9年間を見通した防災教育を実施し、地域防災の担い手を育てる。
- (4) 小中学校の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、言語活動の充実をテーマにした指導案の検討を通して、教員の授業力向上を図る。
- (5) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事やその他の交流を推進する。また、児童・生徒の相互理解を深めるとともに、中学校進学への不安感を除く。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ① 4月30日（木）「三部会」午後4時00分～4時30分（神谷中）
- ② 7月13日（月）「SF連絡協議会」午後4時30分～5時30分（神谷中）
- ③ 8月31日（月）「小中一貫学力向上部会」午後3時00分～3時50分（神谷中）
- ④ 9月26日（土）「SF標語展最終審査会」午後0時00分～0時40分（神谷小）
- ⑤ 1月8日（金）「百人一首大会準備会」午後4時00分～4時30分（神谷小）
- ⑥ 1月26日（火）「SF年間予定打合せ」午後3時30分～4時15分（神谷小）

#### (2) サブファミリー全体での活動

- ① 4月30日（木）「小中一貫教育全体会」  
神谷中学校会場 午後3時30分～3時55分
- ② 5月9日（土）「SF合同避難訓練（引渡訓練）」  
各小中学校会場 午前10時35分～11時30分
- ③ 6月9日（火）「小中一貫指導案検討会（分科会）」  
稲田小学校会場 午後3時45分～4時30分
- ④ 6月13日（土）「SF総合防災訓練」  
神谷中学校会場 午前8時30分～10時50分
- ⑤ 6月24日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・全体会」  
稲田小学校会場 午後1時40分～4時00分  
・講師 志村 雅巳 指導主事（東京都教職員研修センター）
- ⑥ 7月13日（月）「サブファミリー連絡協議会」  
神谷中学校会場 午後4時30分～5時30分  
・各校の生活指導・現況報告・情報交換  
・各校の夏季休業日前生活指導プリント等の説明、赤羽警察署より情報提供
- ⑦ 8月31日（月）「小中一貫指導案検討会（分科会）」  
神谷中学校会場 午後2時00分～2時50分



SF総合防災訓練

⑧ 9月10日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

神谷中学校会場 午後1時30分～4時15分

- ・講師 飯塚 徳彦 先生（北区教育委員会不登校対策室教育指導員）
- 田原 弘司 先生（北区教育委員会不登校対策室教育指導員）
- 笠原 聡 先生（東京都立桜修館中等教育学校副校長）

⑨ 「サブファミリー標語展」

- ・「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒から標語を募集
- ・9月に最優秀作品10点を審査により選び、ポスターを作成
- ・校内及び地域の町会・自治会の掲示板にて展示

⑩ 12月21日（月）「神谷中学校新入生体験入学」

神谷中学校会場 午後1時30分～4時00分

- ・学校紹介・体験授業・部活動体験

⑪ 1月8日（金）「小中一貫指導案検討会（分科会）」

神谷小学校会場 午後3時00分～3時50分

⑫ 1月20日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

神谷小学校会場 午後1時40分～4時00分

- ・講師 谷口 啓子 先生

（前北区立王子第五小学校長）

⑬ 1月26日（火）「百人一首大会」

神谷中学校会場 午後1時30分～3時00分

- ・中学1年と小学4年との合同交流戦を実施



小中合同百人一首大会

### 3. 成果と工夫した点

- (1) 「S F総合防災訓練」を消防署、消防団、北区防災課、町会・自治会、赤十字奉仕団等の関係諸機関の協力を得て、初めて実施できた。また、サブファミリー合同の引き渡し訓練を年度の早い時期に実施し、小中共に子どもが在籍している家庭の動きも訓練することができた。
- (2) 「つまずきゼロプラン」の小中一貫学力向上部会を区教委が示した時期よりも前倒しで開催し、小学校6年生で学力向上に取り組める期間を確保することができた。
- (3) 2.(2)で記載した以外に、中学校で行ってきた農業体験学習について、稲作を中心に一部小中合同で実施し成果を上げた。

### 4. 課題と改善の方向性

- (1) 義務教育9年間を見通した防災教育の核である「S F総合防災訓練」の第1回目の反省に基づき、より効果的な実施方法を検討する。訓練内容はもとより、地域の協力要請についても、地域の実態に即して検討する。
- (2) 今年度、新しい取り組みに着手でき、次年度はそれを発展させ軌道に乗せることが求められる。サブファミリーの活動についての検討機関である「三部会」はその役割を終えたと考えられるため、次年度は「三部会」を廃止し、必要が生じた場合それに代わる機関を設置することとする。

## 浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

### 1. 交流・連携の方向性

浮間中サブファミリーでは、研究主題を「自ら考え、判断し、主体的に学習する子どもの育成」とし、特色ある取組を「花・音・風 ―情操教育の推進―」と題して、さくら草の栽培を通して生命の尊重や郷土を愛する心を培うことや、音楽活動や音楽交流を通して連続性・一貫性のある豊かな情操を育むことに取り組んできた。また、今年度も公開授業や「つまずきゼロプラン 小中一貫学力向上シート」の作成・実施を通して、学習に関する小中の学びの連続性を重視した連携を推進した。

(1) 「学校ファミリーの日」を活用した教員の合同研修を通して、学校ファミリーとしての小中一貫教育の方向性を探り、実践していく。

「公開授業」「全体協議会・分科会」「中1ギャップ連絡会」等を行う。

(2) 子どもたちがより高い目標や理想に向かって向上しようとする態度を育成するため児童・生徒の交流の機会を設定する。

児童と生徒が合同で「音楽交流」「地域清掃ボランティア」等を行う。

(3) 学校行事の連携を推進するため、3校の行事の確認と内容を検討し、お互いの学校の状況が見えるようにする。

「新入生説明会」「文化祭参加」「音楽発表会参加」「作品交流」等を行う。

### 2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ① 運営委員会による方針・目標等の決定
- ② 副校長による内容・方法等の検討
- ③ 教務主任による日程・内容等の調整
- ④ 担当者による内容の打ち合わせ

(2) サブファミリー全体での活動

① 合同研修会・公開授業

年3回の「学校ファミリーの日」に、西浮間小学校・浮間小学校・浮間中学校において、それぞれ公開授業と全体会及び分科会別の協議会を行った。

6月には、西浮間小学校で全学級の公開授業を行い、その後、分科会に別れ、授業の感想や意見交換、小中一貫教育の方向性についての話し合いを行った。

9月は、同様に浮間小学校で全学級の公開授業を行い、その後、分科会に別れ、授業についての協議の他、北区基礎基本定着度調査の結果(中学1年生)をもとに、学力向上に向けての課題について指導の在り方等を検討した。

1月は、浮間中学校の研究発表会において、Q U調査に基づく指導案をもとにした全学級の授業を、浮間小学校と西浮間小学校の全教員が参観し、研究成果発表会や脳科学の視点から学力向上に関する講演会を行った。

② 中一ギャップ連絡会

「学校ファミリーの日」の分科会終了後、「中一ギャップ連絡会」を行った。6月と9月は小学校旧6年生担任と中学校1年生担任が、管理職も含めて子どもたちの様子に関して情報交換を行った。また、3月には、現6年生担任と中学校の教員が中一ギャッ

ブ解消に向けての連絡会を例年実施している。

### ③ 新入生説明会・部活体験

今年度は、中学生の実際の授業風景の参観と部活動見学・体験を主体に行った。新入生説明会では、生徒会による学校紹介のプレゼンテーションも行われ、中学校の様子を両校の6年生に伝えることができた。

### ④ 文化行事交流

浮間中学校の文化祭の展示部門に、小学校の作品展示コーナーを設けている。また、浮間小学校の代表児童による合唱も披露された。小学生が中学校の舞台上で自分たちの歌を披露したことは、小学生にとって大変よい刺激になったようだ。また、中学生にとっても将来の後輩のすばらしい歌声に大いに刺激を受けた様子であった。

また、浮間中学校の吹奏楽部の生徒が、西浮間小学校の音楽集会に参加して演奏し、児童との交流を深めた。

### ⑤ 地域ボランティアでの取組

8月31日(月)に、例年恒例となった浮間地区の清掃活動を実施した。昨年度は雨天のため中止となってしまったが、今年度は予定どおり実施することができた。今後の改善等について、三校PTA連絡協議会で検討した。

### ⑥ 特別支援教育推進のための「浮間セミナー」の開催

11月13日(金)に、西浮間小学校にて、幼稚園・保育園・小中学校の保護者、地域の関係の皆様、教職員を対象に特別支援教育の視点に立った、「子どもの見方・育て方及び関係機関の活用等」について、講師の先生からご講演をいただく啓発事業を行った。

### ⑦ 伝統文化子供茶道教室の取組

指導者のもと浮間中学校茶道部の生徒の協力により、浮間地区の小学生に土曜日に子供茶道教室を実施している。小中学生の交流の場にもなり、健全育成の視点からも有意義な活動となっている。

## 3. 成果と工夫した点

- (1) 合同研修会では、今年度より6分科会から9分科会に増やし、より教科指導の特性を生かした協議をすることができた。
- (2) 各校の教育課程や学力の状況について、より理解を深め、方策を考えることができた。
- (3) 北区で作成された小中一貫カリキュラムや基礎基本定着度調査結果を踏まえての研究授業や教育実践を行うことができた。



ファミリーの日の授業風景：英語

## 4. 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を踏まえた本質的な「連携」を目指して今後も、地域とともに取り組む視点をもった実践を重ねていく。
- (2) 各種調査結果を分析・考察することにより、学習課題を明確にし、小中共通理解のもと、弱点克服に向けた具体的な取組を実施する。

## 田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

### 1. 交流・連携の方向性

- 中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。
- 中1ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小中9年間の教育の接続・一貫を目指す。
- 学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- 10月～11月に行われた「田端学びの郷オープンスクール」において、サブファミリー校の児童・生徒、地域の人たちが一緒になってその道の一流の先生から学び合う総合学習を行う。
- 年3回の「学校ファミリーの日」には、3校の全教員が授業を参観し合い、小・中9年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子供像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 副校長・教務主任連絡会の実施

- 第1回連絡会（滝野川第四小学校）日時：5月8日（金）15：30～
  - ・平成27年度各校の行事予定の確認・調整
  - ・「学校ファミリーの日」の日程、会場校、主な内容等の確認・調整
  - ・オープンスクールの実施案と担当校等の確認・調整
- 第2回連絡会（滝野川第四小学校）日時：1月29日（金）15：30～
  - ・平成28年度の各校行事予定の確認・調整
  - ・「学校ファミリーの日」の日程と担当校及び分科会の検討・調整
  - ・平成28年度のオープンスクールの日程と実施方法の検討・調整

#### (2) サブファミリーの活動報告

- 第1回 田端中サブファミリー合同研修会（会場：田端小学校）
  - ・実施日：平成27年6月24日（水）
  - ・内容：小中一貫カリキュラムを活用した授業公開・分科会・全体会
- 田端中サブファミリー外国語活動合同研修会（会場：滝野川第四小学校）
  - ・実施日：平成27年8月26日（水）
  - ・講師：片山知子先生（北区外国語アドバイザー）
  - ・研修内容：児童の意欲を高めるコミュニケーション活動の工夫、授業で使える活動例及び指導のアイデアの紹介、質疑応答
- 第2回 田端中サブファミリー合同研修会（会場：田端中学校）



- ・実施日：平成27年9月2日（水）
- ・内容：小中一貫カリキュラムを活用した授業公開・分科会・全体会
- 第3回 田端中サブファミリー合同研修会（会場校：滝野川第四小学校）
  - ・実施日：平成28年1月20日（水）
  - ・内容：小中一貫カリキュラムを活用した授業公開・分科会・全体会
- ファミリー小学校6年生体験入学（学校紹介・部活動体験）
  - ・実施日：平成27年10月8日（木） 13：40～15：00
  - ・内容：生徒会による学校紹介と英語、合唱、テニス等10の部活動体験
- 田端学びの郷「オープンスクール」（田端中学校・田端小学校、田端文士村記念館）
  - ・第1回：平成27年10月30日（金）13：30～15：00
  - ・第2回：平成27年11月7日（土）9：15～11：00
  - ・参加者：小学生86名（6年生）、中学生210名（全学年）、講師：25名
  - ・内容：陶芸、茶道、華道、アレンジ生け花、防災救命、クラフト工芸等計20講座を小・中学生がともに地域人材の方に学び活動。
- 「つまずきゼロプラン」小中一貫学力向上部会（会場校：田端中学校）
  - ・実施日：平成27年12月18日（金）16：00～16：45
  - ・参加者：北区教育委員会 サブファミリー担当指導主事、各小学校の第6学年担当教員各校1名、田端中学校副校長・教務主任
  - ・内容：北区基礎・基本調査で明らかになった中学校1学年の課題を、田端中学校教師が第6学年教員と共に解消する取組を推進する。



### 3. 成果と工夫した点

- 分科会の組織を整理し、教員が積極的に合同研修会に参加しやすい体制をとることができた。
- 田端学びの郷「オープンスクール」では、20講座のうち会場は田端中が14講座、田端小が5講座、文士村1講座に分かれ、担当者が協力して実施することができた。地域の人材を生かした特色ある教育活動をさらに進め、児童・生徒の学ぶ意欲を高めたり、地域の方との交流を深めたりすることができた。
- 「つまずきゼロプラン」により、学力面での中1ギャップへの予防・対応のきっかけとなった。小中一貫連続カリキュラムを基礎学力の定着・向上の視点から見直す機会となった。

### 4. 課題と改善の方向性

- 田端学びの郷「オープンスクール」の人材については、各校のもつ人材についても活用しながら、ファミリー全体の取組を深めることができるとよい。
- 小中一貫カリキュラムを活用した授業を合同研修会で行うことができたが、「つまずきゼロプラン」で出た課題をより把握した授業改善を小中協働で進めることができるとよい。

## 滝野川紅葉中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・滝野川第六小・谷端小・紅葉小・たきさん幼）

### 1. 交流・連携の方向性

- ・サブファミリー6校1園で児童・生徒の健全育成及び授業改善推進に向けた取組を行う。
- ・教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深める活動を行う。
- ・伝統野菜の「滝野川ごぼう」等の栽培や標語の作成など、地域に誇りをもつ活動及び地域と関わる活動を行う。
- ・小中一貫教育に向けた具体的な取組を行う。



### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ・年度初めに6校1園の校長で、昨年度末に作成された本年度の活動計画、年間指導計画について、確認を行うとともに今後の方向性を定めた。
- ・6月に各校の校長・副校長・主幹教諭が集まり、サブファミリー運営委員会を実施、部会の組織、運営方法、構成員の確認等を行った。
- ・教務主任・生活指導主任は随時連絡を取合い、方針の共通理解、日程調整等を行った。
- ・2月に校長会、副校長打ち合わせ会で、来年度の方向性を検討した。

#### (2) ファミリー全体での活動

- ①幼小「思いやり」中「絆」をテーマに標語を募集し、審査後、関係各所に掲示した。
- ②授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、体育・保健体育専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7教科の分科会で、「コミュニケーション能力の育成」～自分の考えを相手に伝える～を研究テーマに実施した。

- ・6月24日は、滝野川紅葉中学校全15クラスで、全教科の授業参観及び分科会別研究協議会を行った。

- ・9月9日に滝野川第二小学校、1月20日は紅葉小学校で、分科会ごとに、授業研究及び協議会を行った。各回の研究協議会では、成果と課題を確認した。また、この2回の研究授業では、指導案検討会を8月28日、12月21日にそれぞれ行った。





### ③「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・地域の方々と連携し、子どもたちの活動を支援できる体制を作った。
- ・「地場野菜」の「滝野川ごぼう」について、子どもたちが自分たちで「育てる」活動を通じて食育につなげた。
- ・前年度冬の「土作り」から4月の「種まき」「水やり」「草取り」「収穫」と一年間にわたって関わり続けることや「ごぼう給食」をいただいて、感謝の気持ちを育成した。



### ④体験入学

- ・9月にサブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験入学及び、部活動体験を実施した。



### ⑤六校連キンボール大会

- ・10月18日（日）、滝野川紅葉中学校体育館の明るく温かい雰囲気の中、北区地域スポーツ推進委員のみなさんのご協力により、熱戦が繰り広げられた。

### ⑥クリーンキャンペーン

- ・学校の周りの清掃をしたり、地域に児童作成のポスターを掲示したりすることで、自分たちのまちの美化を意識するだけでなく、地域へのアピールにもつながった。PTAの方々の協力もあった。



## 3. 成果と工夫した点

- ・授業研究を通して、各教科における効果的な指導のあり方を探究することができた。事前に指導案検討会を行うことで成果を収めた。
- ・4月に実施した北区基礎基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を活用して、学力向上の手立てを確認できた。
- ・3回目に紅葉小学校で行なわれた、研究授業及び研究協議会は、各領域とも講師をお招きし、指導助言をいただくことができた。小・中一貫教育カリキュラムに関する講話も聞け、今後の研修につながるものとなった。

## 4. 課題と改善の方向性

- ・各教科での研究は、小中一貫教育カリキュラムに関する研修につながったが、小中9年間を見通した指導のあり方を検証する必要がある。
- ・来年度も、研究テーマを「コミュニケーション能力の育成」～自分の考えを相手に伝える～とし継続研究をしていく。各教科の中で、言語活動（話す・聞く・書く・読む）の充実を図り、どのような指導の工夫をして力を育成するかが、今後の課題である。
- ・研究分科会は、教科の専門性を重視した教科連携型を継承する。①国語 ②社会 ③算数・数学 ④理科 ⑤外国語活動・英語 ⑥体育・保健体育（養護教諭を含む） ⑦専科（音楽、図工・美術、技術・家庭（栄養士を含む））の7分科会とする。ただし、専科を各教科に分けて行うことも視野に入れる。

## 飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

### 1. 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた基礎学力向上、児童・生徒交流を 2 つの柱として、小・中連携教育の推進を充実する。

#### 育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供



### 2. 具体的な活動

#### (1) 全体会

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| ① 5月 1日（金）全体会・打ち合わせ会    | 飛鳥中学校 15時～     |
| ② 6月 25日（木）公開授業（算数・全学級） | 西ヶ原小学校 13時40分～ |
| ③ 9月 9日（水）道徳授業地区公開講座    | 飛鳥中学校 13時30分～  |
| ④ 12月 4日（金）研究協力校研究授業    | 滝野川小学校 13時30分～ |

#### (2) 分科会の具体的な取組

##### [基礎学力向上]

#### ① 算数・数学

小学校の少人数担当教員が中学1年数学授業にT・Tで参加。(6月)

小学校の算数公開授業に中学校教員全員参加。(6月)

中学3年生が小学校6年生の算数の授業に参加。(2月)

#### ② 理科

小中合同実技研修会を実施（電気の性質）(8月)

#### ③ 外国語活動・英語

飛鳥中学校英語科年間計画を滝野川小、西ヶ原小へ送る。

小中の授業実践報告を通し意見交換会を行う。

中学校新入生体験入学において英語科授業体験、見学。



#### ④ 道徳

飛鳥中学校の道徳授業地区公開講座に3校の教員が全員参観。全体協議会には講師を招聘（へい）し、地域・保護者の方と意見交換会を行う。(9月)

##### [児童・生徒交流]

#### ① 保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての発表を行う。(12月)

#### ② 家庭科

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

③ 図工・美術

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

④ 習字・書写

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

⑤ 運動会交流・参加

西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。(5月)

⑥ 合唱交流・参加

飛鳥中(3年)・滝野川小(6年)・西ヶ原小(6年)が飛鳥中で合同合唱交流。(3月)  
混声三部合唱「夢の世界を」

⑦ 陸上記録会練習交流

飛鳥中陸上部の生徒、各運動部の生徒が中心となり、小学校陸上記録会に向けて滝野川小・西ヶ原小の6年生と合同練習を行う。(10月)

⑧ 部活動交流

飛鳥中での新入生体験入学で、各部活動へ体験入部し交流する。(11月)



### 3. 成果と工夫した点

3校が年間計画の限られた時間の中で「何ができるか」「何が効果的か」を意見交換し、協議した。各分科会の責任者が中心となり、連絡・調整したことで効果的な活動が継続的に実施できた。

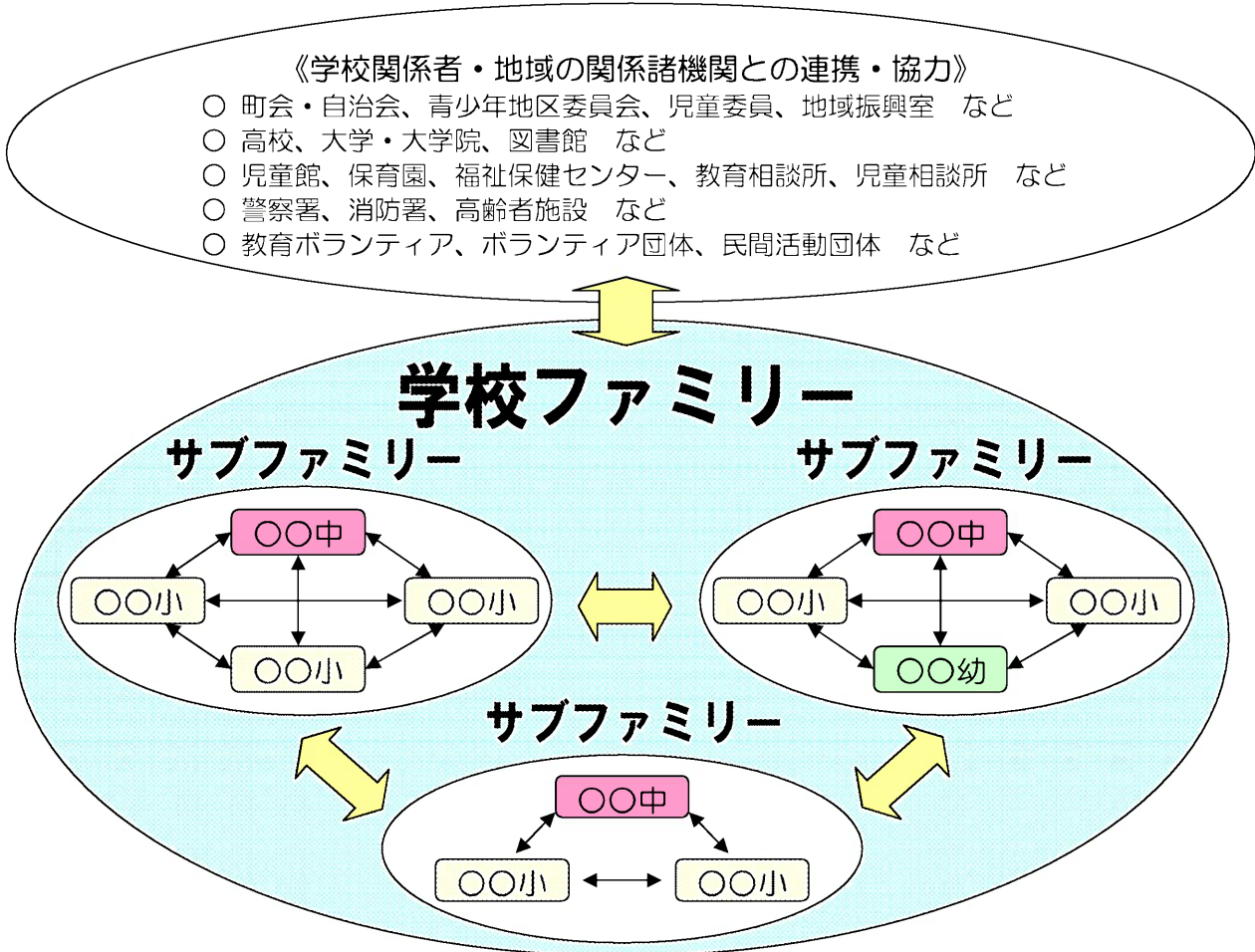
### 4. 課題と改善の方向性

- (1) 小学校と中学校の時程の違い、カリキュラムの違いにより、特に、小中交流活動において、時間の調整をしながらフットワークよく実施していく。
- (2) 基礎学力向上では滝野川小と西ヶ原小の研究を基礎として、飛鳥中学校で全教科・道徳において「問題解決型の授業」を活用した主体的な学習能力の向上をテーマとして研究を進めることができた。今後もさらに基礎学力の定着や学習習慣の定着を図り、小中の連携を継続していく。
- (3) 各分科会での活動内容を深めながら継続するとともに、新たに交流できることを分科会ごとに計画する。

# 北区学校ファミリー構想概要

## 1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

### 教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

### 改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

## 2 北区学校ファミリーのねらい

### ①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結び」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

### ②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

### ③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

## 3 学校間連携による5つの効果

### ①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

### ②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

### ③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

### ④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

### ⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

## 4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

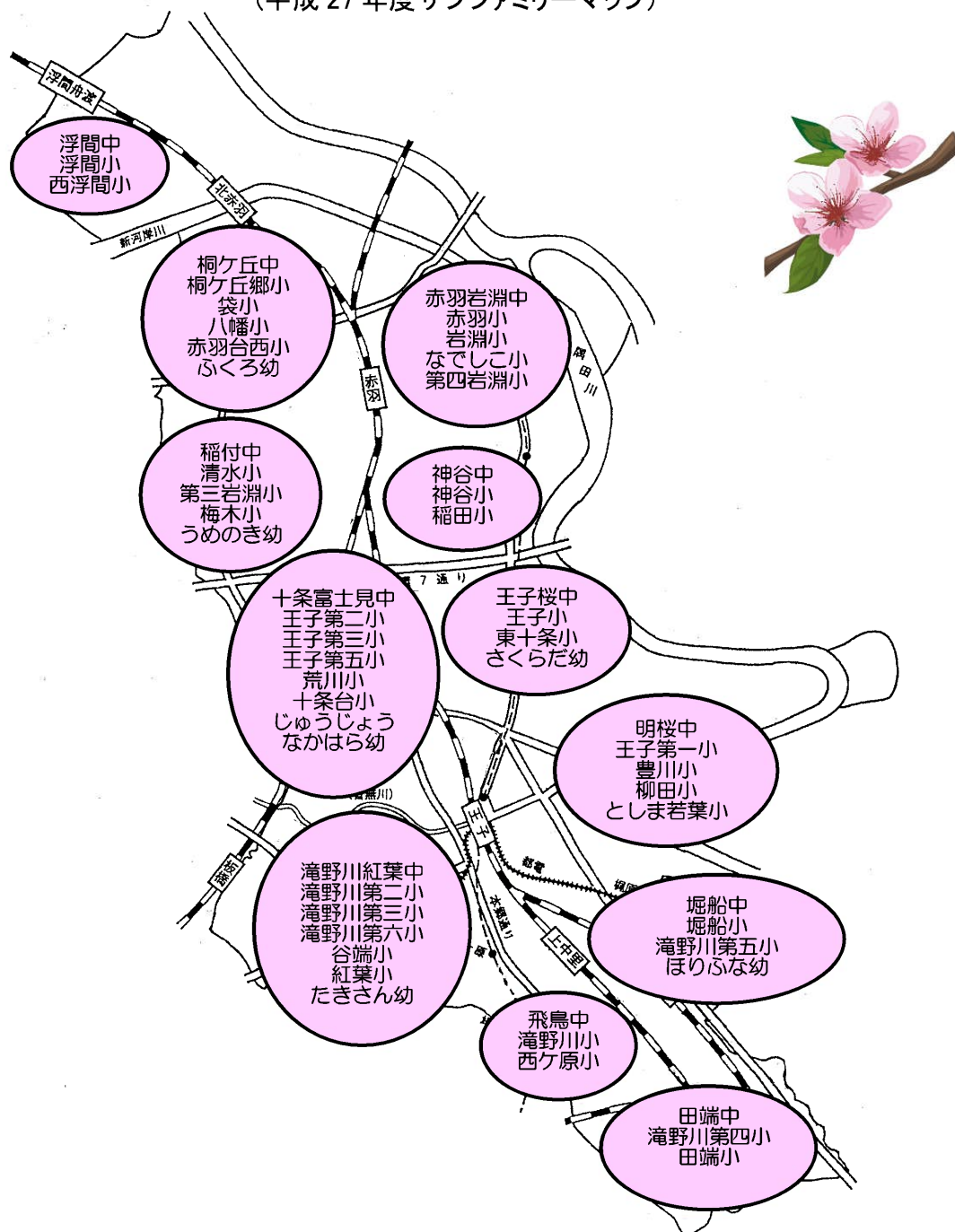
### 「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、各学期に「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

## 5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(平成27年度サブファミリーマップ)



## 6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

## 平成 27 年度北区学校ファミリー事業報告書

平成 28 年 3 月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育政策課

東京都北区滝野川 2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

27-1-129